

第1回無電柱化低コスト手法技術検討委員会 議事概要

1. 日時：平成26年9月26日（金）15：00～17：00

2. 場所：経済産業省別館310会議室

3. 議事要旨：

（1）無電柱化の現状と課題

- ・無電柱化の現状と課題について（報告）。

（2）無電柱化低コスト手法の技術的検証内容

1）試験①（埋設深さ確認試験）について

- ・ケーブル外被材質特性への影響があると考えられる水分量（体積含水率）や温度の計測の追加を検討する。
- ・車両走行試験開始後の初期段階は、地盤の塑性変形の進行が早いため、各種計測は高頻度を実施することが望ましい。
- ・舗装の一般的な設計期間10年と、ケーブルの耐用年数20～30年とはサイクルが異なるため、10年間を想定した輪数よりも多く負荷し、ケーブル等への影響を確認するのがよい。
- ・ケーブル本体の促進劣化（経年に伴う劣化）の検証については、別途検討が必要である。
- ・舗装施工の際のケーブルへの影響を確認するために、ケーブル埋設前や舗装施工の各段階での土圧やケーブルの状態、特性等の計測の実施を検討する。
- ・電力線への通電量については、試験で検証すべき事項を踏まえて設定する。

2) 試験②(離隔距離確認試験)について

- ・ 低圧ケーブルに印加する電流の条件については、関係者間で調整する。

3) 試験③(施工性確認試験)について

- ・ 既設道路に対する施工性や適用可能性の検証については、本試験結果を整理した上で別途検討する。
- ・ 小型ボックスのサイズの検討と合わせ、必要に応じて分岐部等のサイズを検討する。
- ・ 小型ボックスの余裕空間に対する追加配線の可能性について検討する。

4) その他の指摘事項

a) 優先順位検討について

- ・ 地下埋設をすべき箇所について、優先順位の考え方の検討も必要ではないか。

b) 海外事例の調査について

- ・ 海外における無電柱化事例について、課題点やその対応等について整理し、次回委員会にて報告する。

c) アーク放電による影響について

- ・ ケーブル故障時のアーク放電による影響について、別途試験し、電磁誘導と同等に評価する必要がある。

(3) その他

- ・ 本日の委員会での指摘等を踏まえ、試験での検討事項等を早急に整理し、調整を行う。委員長の確認を取った上で進める。

以 上